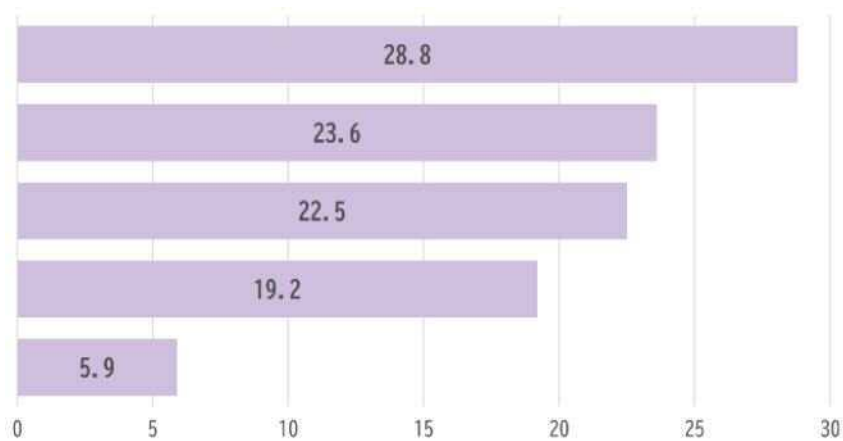


職場

(3) 女性の仕事について、現在の状況はどのような傾向にあると思いますか？
(選択は二つ。回答数 271)

単位：％

1. 結婚をしても子どもができてもずっと仕事を続けられる
2. 子どもができるまでは、仕事はできている
3. 出産・育児により仕事を辞め、子どもの成長により再就職する
4. 女性は常勤に就きにくい、または役職に就きにくい
5. 結婚するまでは仕事はできている



女性の働き方として、出産・育児により仕事を辞め、子育ての状況に合わせて再度仕事に就くケースも少なくないことが分かります。また、別の設問の「あなた（配偶者を含め）の職場では、仕事や待遇面で女性と男性の差別がありますか」では、226 人中 55 人のかたが「女性を低く差をつけている」と回答がありました。その理由として、「結婚・出産があると勤め続けにくい雰囲気がある」「賃金に差がある」「昇進、昇格に差がある」が上位にあがっていました。

○職場で休業制度を活用したことがある方（226 人中男女かわらず活用した人数）

・育児休業制度 116 人（51.3％） ・看護休暇 106 人（46.9％） ・介護休暇 7 人（2.7％）

男女雇用機会均等法が施行されていますが、事業所規模や経営状況により、女性の雇用内容や働き続けられる環境は各々違うようであり、結婚・出産・育児により離職することも少なくなく、家事・育児だけでなく家庭と仕事に関わることににおいても女性に環境変化が求められるなど負担がかかっていることが伺えます。

課題が多くある一方、女性の社会活躍も進んでおり、各分野で女性の視点を活かした共同参画が広がっています。男女のこれまでの固定的な役割分担意識を払しょくすることで、男女共同参画社会が築かれ、個性や能力が発揮されていくものと考えます。最後に、「女性の社会参画」「町に希望する施策」の設問に対する回答結果をご紹介します。

町に希望する施策

「男女共同参画社会の促進として、町に希望する施策はどんなものがありますか」（複数選択）に対し、以下の回答が多くありました。

- (1) 保育施設・サービスや子育て支援を充実する。
- (2) 就労における男女の機会均等の働きやすい環境の整備を進める企業を支援する。
- (3) 労働時間の短縮や休暇の取得、テレワーク制度の普及など働き方の見直しを啓発する。
- (4) 男女共同参画の視点から、各分野における男女の慣習の見直しや啓発を進める。
- (5) 男女平等の視点に立った教育や学習を進める。

女性の社会参画

「女性の参画やリーダーが増え、政策や経営の方針等に関わる機会が増えることで、どのような影響があると思いますか」（複数選択）に対し、以下の回答が多くありました。

- (1) 男女問わず優秀な人材が活躍できる。
- (2) 男女問わず仕事や家庭の両方を優先しやすい社会になる。
- (3) 多様な視点が加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される。
- (4) 女性の声が反映されやすくなり、男女平等の環境が進む。

アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

問合せ先▶ 政策企画課 企画振興係（2 階①番窓口） ☎ 0224-53-2112

男女共同参画に関するアンケート調査結果

男女共同参画とは、「女性」や「男性」というイメージにあてはめることなく、家庭や職場、地域において、男女が互いに人権を尊重し、一人ひとりが持っている個性や能力を十分に発揮することで、豊かで幸せな人生につなげていくための社会づくりを言います。国や県が進める男女共同参画社会促進の施策を踏まえ、本年度、本町では「大河原町男女共同参画基本計画」の策定作業を進めています。その一環として、町内小学生保護者及び事業所に「男女共同参画に関するアンケート」を実施しましたので、主に小学生保護者分についてご紹介します。

○男女共同参画に関するアンケート

- ・実施期間 令和 6 年 5 月 1 日～ 6 月 7 日（郵送及びオンライン回答）
- ・回収結果 小学校 3・4 年生保護者 403 人に配布し 226 通回収（回収率 56.1％）
商工会登録事業所 551 社に配布し 83 通回収（回収率 15.1％）

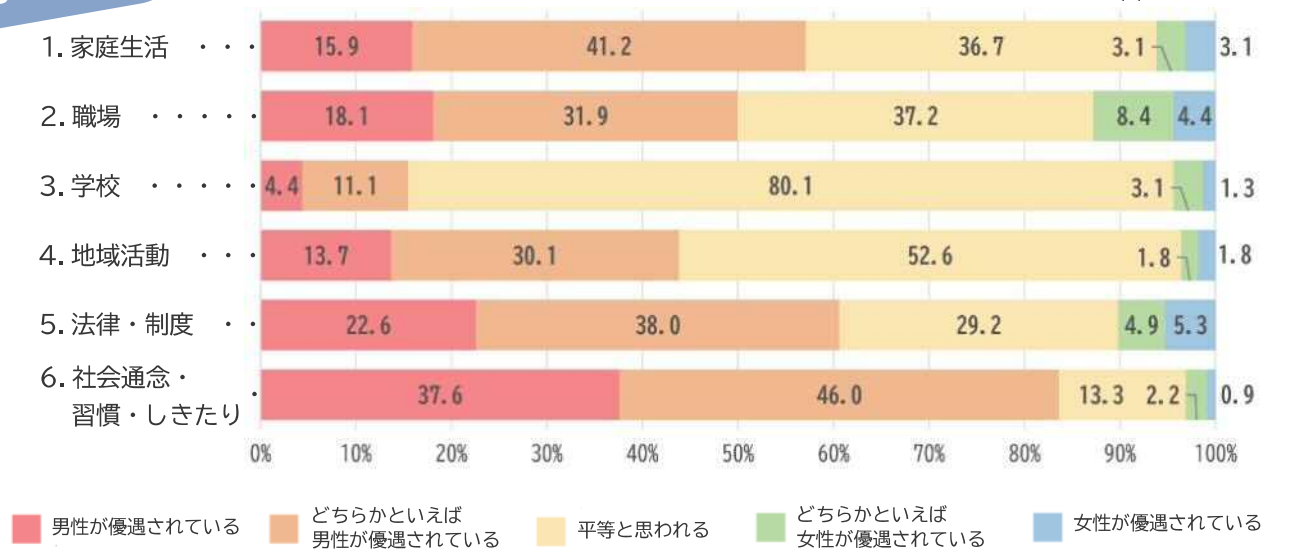


○小学生保護者アンケート（回答者 226 人 属性：女性 90.3％・男性 9.7％、30 代 42.0％・40 代 54.0％ほか）

男女平等

(1) あなたは男女平等についてどのように感じていますか？
(各項目で一つの回答選択)

単位：％



学校及び地域活動では男女平等との回答が多くありましたが、その他の項目では女性より男性が優遇されているとの回答が多くありました。特に、社会通念・習慣等で男性が優遇されていると感じている割合が大きくなっています。

家庭

(2) 次にあげる事項について、あなたはどのように考えますか？（回答者 226 人）

設 問	思 う	どちらとも いえない	思 わない
1. 男性は外で働き、女性は家庭を守る方がよい	17.3%	29.2%	53.5%
2. 家事等について、夫婦間で分担を話し合い、お互いに協力している	63.7%	18.6%	17.7%
3. 女性の方が家事・育児等に携わる時間が男性より大幅に多いと感じる	89.4%	5.8%	4.8%
4. 男性が家事・育児等に携わることにし、男性の抵抗感をなくすことが大切	91.2%	5.3%	3.5%
5. 男性が家事・育児等に携わることにし、女性の抵抗感をなくすことが大切	77.0%	8.9%	14.1%
6. お子さんに「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方を意識している	22.1%	27.4%	50.5%

この結果から、男性だから、女性だからという観念にとらわれない傾向も見受けられますが、家事・育児等で女性の負担は重いままのようです。男女が家事・育児等に対して、それぞれ抱いている抵抗感をなくし、男性の家事・育児等に携わる時間を増やし、負担を分け合うことが大切であると多くのかたが考えています。